

	<p>発行所 〒921-8517 金沢市泉野出町3丁目10-10 石川県立金沢泉丘高校内 一泉同窓会 電話 (076) 242-0211 FAX (076) 216-5656 2011. 3. 31. 発行 E-mail: issen.knz@hotmail.com</p>	
---	---	--

創立117周年一泉同窓会総会・懇親会
740人が母校の発展誓う
役員改選 会長に清水氏(泉丘22期)選ぶ



前倒し寄贈のバス



清水義博会長



えた。また、中山一郎事務局長(同10期)が120周年記念事業で校内に生徒連絡用電子モニターの設置や吹奏楽部の不足楽器の整備を発表した。バスの寄贈セレモニーでは蚊谷会長から浅田校長にゴールドenキーが手渡され、大きな拍手を受けた。

創立117周年記念・平成22年度の一泉同窓会総会と懇親会が創立記念日の10月15日、金沢駅前のホテル日航金沢で開かれ、90代の中44期から20代の泉丘57期までの約740人が出席、母校発展へ力を合わせていくことを誓った。役員改選では3期6年間務めた蚊谷八郎会長(泉丘14期)らに代わって、清水義博会長(同22期)ら13人の新役員が満場一致で承認された。

懇親会は29期の鍋谷有介さんと河合那保子さんが司会、清水新会長の乾杯の音頭で始まった。同期生同士、先輩と後輩のにぎやかな歓談の合間にフラダンスや平尾隆さん(同25期)のジャズピアノ演奏があり、いつものように応援歌、一中・泉丘の両校歌合唱で盛り上がりも最高潮に達した=写真=。29期の川北哲実行委員長のお礼のあいさつ、来年の小原繁30期実行委員長の決意表明があり、最後に林隆信新副会長の万歳三唱で名残を惜しんでの散会となった。

遠征用バスを前倒し寄贈

総会では蚊谷会長が平成25年に迎える創立120周年記念事業の一環として、部活動遠征用バス1台を前倒し寄贈することを報告すると共に700人を超える出席者を集めた幹事の泉丘29期を称えた。続いて浅田秀雄校長が母校の近況を報告、2年生360人が10月5日から4日間、修学旅行で初めて台湾を訪れ一中11期の大先輩・八田與一技師が築いた烏山頭ダムなどを見学、熱烈歓迎を受けた様子を伝

新役員13人中、留任は4人

新役員は次の皆さん。(○は留任、全員泉丘)
◇会長 清水義博(22期) ◇副会長 林隆信(22期)、○泉屋利郎(14期)、新村康二(18期)、岡能久(20期)、温井伸(26期)、玉川昌範(31期)、○中村太郎(35期)、北川雅一期(39期)、笠松寿美子(通信41期) ◇監事 ○笠置研一(11期)、高木清一郎(13期) ◇事務局長 ○中山一郎(10期)

巖霜碑前で物故者慰霊祭

平成22年度の一泉同窓会物故者慰霊祭が創立記念日の10月15日午後、母校の巖霜碑前で行われた=写真=。

蚊谷八郎会長（泉丘14期）、渋谷亮治元会長（一中54期）、最年長の中川松雄さん（同43期、92歳）、川北 哲今年度総会実行委員長（泉丘29期）ら同窓生23人と浅田秀雄校長ら学校関係者5人の計28人が出席、石浦神社の長谷勝俊宮司の祝詞奏上のあと全員が順に玉ぐしを捧げて太平洋戦争の殉難者や亡き師、亡き友の霊を慰めた。



明治26年の創立以来117年、この間に亡くなった一中・泉丘の卒業生と教職員は8,600余人にのぼる。

地区同窓会だより



世代を超えて親交深める 関東一泉、過去最高の410人

首都圏在住の旧制金沢一中と泉丘高校出身者でつくる「関東一泉同窓会」の平成22年度（第52回）総会・懇親会が10月23日、東京・九段北のベルサール九段イベントホールで開かれた。今年の担当幹事は泉丘31期でテーマは「よお！久しぶり！ときを超えて、つなげよう！未来への絆」。過去最高の約410人が集って世代を超えて親交を深めた。

総会の役員改選では浅井敏郎会長（一中50期）らが退任、新会長に選ばれた新谷 修さん（泉丘11期）は「新役員で協力して先輩、後輩の絆が深まるよう円滑な同窓会運営を目指す」とあいさつした。続いて清水義博一泉同窓会会長（同22期）と浅田秀雄校長が祝辞

を述べた。浅田校長は母校の近況として2年生が初めて台湾へ修学旅行に出かけ、烏山頭ダムを建設した八田與一先輩（一中11期）との縁で熱烈歓迎を受けたことを報告した。

懇親会は蚊谷八郎一泉同窓会前会長（泉丘14期）の乾杯発声で始まった。31期演出の第1部は「ふるさと金沢」。3D映像による「飛び出す金沢！名所100選」で母校の様子も紹介された。第2部の「一泉、歴史クイズ」では出身中学別に分かれて交流した=写真=。母校の発展を願ってのエンディングでは賀谷梅吉31期代表幹事のリードで一中、泉丘にエールを送って両校歌を大合唱、熊田大史32期代表幹事が「来年度も実りある総会にしたい」と決意表明、関東の山岸 章副会長（同17期）の閉会の辞で名残を惜しんで散会した。

金沢からは清水一泉同窓会会長、蚊谷前会長、浅田校長のほか泉屋利郎副会長（同14期）、林 隆信同（同22期）、玉川昌範同（同31期）、中山一郎事務局長（同10期）の7人が出席した。

新会長に新谷さん(泉丘)就任

関東の新役員は次の皆さん(全員泉丘)。◇会長 新谷 修(11期)、◇副会長 山岸 章(17期)、高山 充(20期)、宇野明美(23期、留任)、大砂雅子(26期) ◇監事兼事務局長 山下哲之(22期、留任) ◇監事 浅井稔(23期) ◇顧問 村上 与恵(12期)

関西一泉総会に95人出席 加賀・能登の食材に舌鼓

関西一泉同窓会の第30回総会・懇親会が5月22日、JR大阪駅近くの「ウェスティンホテル大阪」で開かれた。金沢からの蚊谷八郎本部長（泉丘14期）、母校の浅田秀雄校長、恩師の寺田恒一先生（同10期）ら6人を含め95人が出席し、同ホテルの能川弘文総支配人（同22期）が加賀・能登から集めた食材の美味しい料理に舌鼓を打った。



長岡さん(43期)が10万円寄付

若月寿賢君（同34期）が司会を務め、関西一泉の片瀬貴文会長（一中55期）が「来年はもっと出席者を多くして、一泉の輪をさらに広めよう」とあいさつ、最年長の長岡寛厚さん（同43期）の乾杯の音頭で酒宴に入った。長岡さんは昨年「私が死んだら一泉同窓会に50万円を寄付するよう遺言状を作った」と話して脚光を浴びたが、今年は「まだまだ元気で当分死にそうにない。そこで今回から10万円の寄付を5年間続ける」と発表、蚊谷本部長に10万円を贈った。蚊谷会長は即座に「長岡さんの厚意を生かし、この10万円は今総会

の協力金としたい」と述べて片瀬会長に手渡し、会場は大きな拍手につつまれた。

楽しい歓談の中に歌あり笑いありで進んだ宴は、藤井啓司君（泉丘57期）が司会に加わっての恒例のラッキープレゼントで一段と盛り上がった。最後に一中と泉丘の両校歌を大合唱し＝写真＝、辻本初枝副会長（同4期）の中締めで2時間余の宴を閉じた。

いつものように二次会は松尾ゆきえさん（通信12期）経営の北新地の「珠洲」で行われ、金沢組も含めた40人余が集ってもう一度盛り上がった。

行列で「一泉」の意気示す



一中創立の地・本多町から泉丘の現校舎まで約4.5キロを歩き、県民・市民に「一泉」の心意気をアピールする『一泉行列』が8月27日に行われた＝写真＝。今年是一中校舎跡の金沢歌劇座が改装工事中のため、旧県庁跡

地の広坂緑地からの出発となった。

浅田秀雄校長が「一中魂を継承して頑張る泉丘の姿を示そう」とあいさつした。OBたち約50人は一中・泉丘の応援団旗を掲げ、創立記念祭の野外劇の扮装や学ラン姿の応援団など現役生は250人。総勢300人はブラスバンド部員が奏でる校歌や応援団歌に元気づけられ香林坊一片町一野町と進んだ。沿道では事業所を構える同窓生たちが拍手で向かえ、激励の声を送った。弥生2丁目のフラワーガーデン前では今年も経営者の松下良さん（一中53期）が花束を先頭の生徒会役員に手渡した。

正午前に母校のグラウンドに到着、ジュースで乾杯したあと蚊谷八郎同窓会会長が「例年のない猛暑の中を若い力に勇気付けられ完歩できた」とお礼を述べた。今年も最高齢参加者は太田重雄さん（同50期、85歳）だった。



2年ぶりに「はくおう会」

野田中校下の一中・泉丘同窓生の集い「はくおう会」が6月9日、金沢市十一屋町の橋本旅館で開かれた。2年ぶりの開催で16人が出席して親睦を深めた＝写真＝。

初めに新保時正会長（一中53期）が「新しい体制での会発展を望む」と退任のあいさつをして、新会長に加藤弘雄氏（泉丘8期）、幹事に増田伸子（同28期）を選出した。

懇親会では全員が自己紹介をし、季節の料理に舌鼓を打ちながらお酒も進んで高校時代の思い出や地域の話で盛り上がった。最後は四十万谷郁男氏（同4期）の一本締めで次回出席を約して散会した。（増田伸子・記）

22回目の三馬一泉同志会

三馬一泉同志会の22回目の総会・懇親会が6月25日、金沢市久安2丁目の魚料理「夢太郎」で13人が出席して開かれた＝写真＝。総会では角信平会長（泉丘5期）が「どこよりも先に発足した地域同窓会を、いつまでも続けてもらいたい」とあいさつ、役員改選では6年間会長を務められた角氏が常任顧問に退き、副会長の大西俊治氏（同7期）が新会長に選ばれた。大西氏は「21年前に発起人に名を連ねた一人として、沢山の地区同窓生が集

故南秀男さん（一中41期）の縁で長年、母校・泉丘高校の生徒食堂を運営していたエム・コック・サービスが平成22年12月末で撤退、新年からベネフレックス（高岡市）が賄いを始めた。これまでよりメニューが豊富な上にネーミングも面白く、生徒たちにも好評だ。

OBも生徒食堂の利用を

各種うどん、日替わり定食のほかスタミナ丼、モリモリ丼、点数とり丼、一泉丼が各330円、赤門ラーメン340円、金沢カレー330円と言った具合。

大西晃潤事務長は「一泉OBの方もどうぞ味見をしてください」と利用を呼びかけている。



う会にしたい」と述べ、協力を要請した。

懇親会は久々に顔を見せられた太田重雄さん（一中50期）の乾杯の音頭で始まり、美味な魚料理に舌鼓を打ちながらお酒も進んだ。話題は三馬校下の発展策にまで及び、地域同窓会ならではの楽しい雰囲気終始した。最後は田中一郎副会長（泉丘8期）の「来年も元気で集まろう」との中締めで散会した。

（庶務・北島敏男＝泉丘8期＝記）

HOKURYU 北菱電興株式会社

取締役 小倉周一郎（元一泉同窓会会長）
相談役 泉丘7期

代表取締役社長 小倉 一郎（泉丘40期）

本社 〒920-0381 金沢市古府3丁目12番地
TEL (076) 269-8500(代) FAX (076) 269-8501

カクニ産業株式会社

代表取締役社長 蚊谷八郎（前一泉同窓会会長）
泉丘14期

本社 〒920-0910 石川県金沢市新町6番33号
TEL (076) 263-6111 FAX (076) 222-3433

30周年に向け結束固める 松任一泉、世代を超えて集う

松任一泉同窓会の平成22年度総会・懇親会が11月28日、グランドホテル松任で開かれ出席した一中・泉丘の同窓生57人が地域の輪を確かめ合った。

司会は松田栄司さん（泉丘27期）が務め、総会の冒頭、福住孝会長（一中57期）が「松任一泉同窓会は来年結成30周年を迎える。さらに発展するようお力添えをいただきたい」とあいさつ、来賓の新村康二一泉同窓会副会長（泉丘18期）は今年度就任の清水義博会長（同22期）の祝辞を代読した。さらに母校の浅田秀雄校長からは勉学や部活動などで活躍する生徒たちの様子や、今年初めて実施した台湾への修学旅行についての報告があった。

引き続き青木桂生副会長（同13期）の乾杯の音頭で懇親会に移り、和やかな雰囲気の中で世代を超えた同窓の輪を広げた。恒例のビンゴゲームではいつもながら一喜一憂、当選者のうれしいあいさつが続いた。

最後に一中・泉丘の両校歌を斉唱＝写真＝し、中締めとして中山幸昌副会長（同9期）



が「来年の30周年はより大勢の参加者で祝おう。そのためにも今年の参加者が必ず1人以上を誘ってください」と呼びかけて散会となった。

総会・懇親会に先駆け、白山市在住の挿絵画家・西のぼるさんの「明日を味方に」と題する講演を聴いた。

（松本雅治＝泉丘42期・記）



4回目の「光が丘一泉会」

「北陸へ初上陸」と報じられた台風9号通過直後の9月9日、光が丘一泉会（9・9会）が「金沢国際ホテル・浅田屋」で開かれた。会則も役員も設けのないユニークな同会も今年で4回目を迎え、新たな出席者3人を加え16人が集った＝写真上＝。

中野他喜夫男さん（一中52期）の乾杯発声から中山一郎さん（泉丘10期・一泉同窓会事務局長）の現況報告、石田 豊さん（一中51期）の中締めに至る約2時間半は、最年長（一中51期）から最年少（泉丘14期）までの出席者世代を反映して戦前、戦中、戦後の世相を彷彿させる逸話も多く、心地よい時間の経過は早かった。最後に一中・泉丘の校歌を高らかに歌い、来期の再会を楽しみに散会した。

（畝村邦夫＝泉丘11期・記）



学校法人金沢工業大学

理事長 泉屋利郎（一泉同窓会副会長）
（泉丘14期）

石川県石川郡野々市町扇が丘7-1 〒921-8501
Tel. 076-248-1100

加賀の菊酒

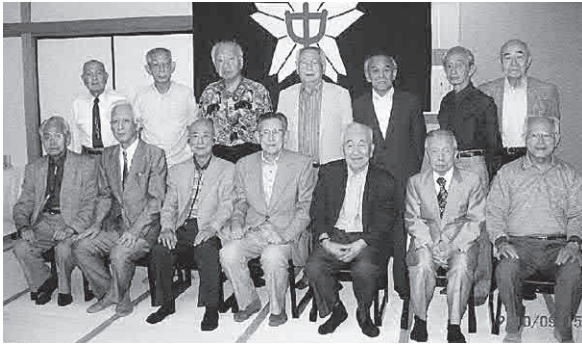


萬歳樂

株式会社 小堀酒造店

代表取締役 小堀 幸穂（前一泉同窓会副会長）
（泉丘17期）

一中・泉丘 各期の集い



◆一中50期が1年半ぶりに同窓会

金沢一中50期の同窓会が9月15日、金沢市のエクセルホテル東急で開かれた。1年半ぶりの開催で当初18人の参加申し込みがあったが、今夏の酷暑が響いたのかその後4人が欠席となり、14人の集まりとなった。

まず校旗の前に整列して記念写真を撮り＝写真＝、続いて前回からこの日までに亡くなった7人の級友の冥福を祈って黙祷を捧げた。宴会は浅井敏郎さんの乾杯の音頭で始まった。飲むほどに酔うほどに座を回って杯を酌み交わし、日常生活の話のやり取りもみんな耳が遠くなったせいか声が大きくなり、まさに85、86歳の同窓会そのもの。

浅井さんは長く務められた関東一泉同窓会長を秋の総会を機に辞められるとのこと。そんな話の中で青地龍男さんが、寄せ書きのある校旗を披露された。一中の校長だった父親の青地乙治先生が戦時中の教育政策のため外地に赴任されたとき、在校生たちが記念に贈ったもので、私たち50期生の寄せ書きもありみんな感慨もひとしおだった。その青地さんの万歳で次回を楽しみにしての散会となった。

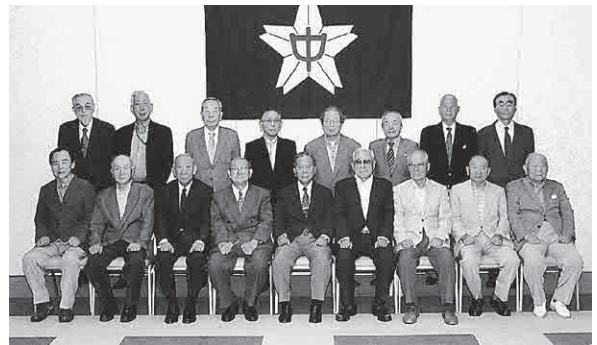
(太田重雄・記)

◆元気に一中51期一櫻会が同窓会

恒例の金沢一中51期（昭和19年卒）一櫻会の同窓会を5月20日、金沢市大手町の「KKRホテル金沢」1泊で開催した。今年の参加者は関東1人、関西4人、中部1人、地元11人の総勢17人で、全員すこぶる元気だった＝写真＝。しかし、これまで皆出席の和田静夫君と大森三郎君が体調をくずして欠席され、拝顔できなかったことが気がかりでもあり大変残念だった。

中野利男君の司会でまず137人の物故者に黙祷を捧げ、朴木春夫君の乾杯で懇親に入った。80年有余の人生を完走し仕事のしがらみから解放された面々が、各人各様に恬淡として清々しく落ち着いた雰囲気の中で楽しそうに談笑されており、「年を重ねてからの同窓会」でなければ味わえない一コマを垣間見たようで、思い新たなものがあった。最後は越村吉郎君の音頭で校歌・応援歌を合唱し、締めは宮野良雄君の一本締めで来年の再会を約し閉会した。後は二次会場へと席を移し、深夜近くまで歓談が続いた。

翌日は朝食後流れ解散となったが、「歴史都市づくり」の一環として復元された金沢城河北門を有志で見学、今に伝わる築城技術の素晴らしさに感銘を受けた。(園部哲三・記)



JESK HORIUCHI
株式会社 ジェスク ホリウチ

代表取締役社長 清水 義博 (一泉同窓会会長 泉丘 22期)

本社 金沢市泉3丁目1番6号 TEL 076-242-3175 FAX 076-245-3012
金沢・新潟・富山・福井・長岡・長野

自動車販売・整備

キスモ株式会社

代表取締役社長 林 隆信 (一泉同窓会副会長 泉丘 22期)

本社 〒921-8043 金沢市西泉3丁目2番1号
TEL (076)280-4455 FAX (076)280-0657

◆一中54期同窓会に37人集う

(浅野俊一・記)

金沢一中54期の同窓会が9月30日、金沢スカイホテルで開かれ、傘寿を越した37人が集まった=写真=。午後5時、前回の19年5月以降に亡くなった会員19人に黙祷を捧げた後、世話人代表の木越 樹君が歓迎のあいさつを述べ、東京・氷田正男、関西・宮崎欽彌の両君が地区の近況報告を行い、東京・糸多宗人君の乾杯の音頭で幕が上がった。

回を重ねるごとに人数が減るのは時の流れ



で仕方がないが、今回は同伴1組のほか亡き会員の夫人3人が初めて参加され、会場はいつもに増して華やいだ。亡き級友をしのぶ一方で酒の肴にされる人もあり、愉快的ひと時を過ごした。

当日は好天に恵まれ、ホテル18階の会場からは市街の大方を一望できた。遠く大乘寺山の麓には泉丘の特徴ある校舎も垣間見え、グラス片手に窓外の景色に見入る人の立ち姿が目立った。

歓談が最高潮に達したころ、恒例の応援歌、校歌の大合唱となり、宮崎光二君の締め辞で散会したのは7時半を過ぎていた。

なお、今回は希望者による泉丘高校の見学会が行われた。午後2時に学校に集合し中山事務局長を煩わせて資料室や校舎の内外を丁寧に案内していただいた。多謝。

◆特別科学学級2回生がクラス会

昭和20年に金沢一中に設けられた「特別科学学級」2回生のクラス会が5月13日、ホテル日航金沢で開かれ、会員11人=写真=が友情を確かめ合った。

同学級は太平洋戦争の敗色濃厚な昭和19年末、国が科学戦で劣勢との認識から遅まきながら科学技術の伸長を期して編成したものの。金沢では20年4月時点で金沢一中の1、2年生各1クラス、石川師範男子部附属国民学校の5、6年生各1クラスがあった。

同学級1回生(一中56期・2年生)は1年生だった20年1月15日に理数科目の優秀な生徒16人が選抜されて発足、2回生は新1年生(一中57期)となった4月3日に28人で編成された。一中57期生(後に泉丘3期生となる)は40人編成で5クラスあり、特別科学学級2回生は1年6組とされた。

当日は担任の故能瀬秀雄先生を偲び、金沢高等師範学校(当時は中村町)で学んだことや、一中精神を強く教えられた教官などの思い出話に花を咲かせた。同学級は8月15日の敗戦後しばらくして解散となった。後に担任となった野沢康夫先生も高岡市から元気な姿を見せられた。(田上光・記)



医療法人社団

新村病院

〒920-2104 白山市月橋町722-12 ☎(076)273-0100

社会福祉法人 鶴来会
特別養護老人ホーム

あじさいの郷

〒920-2132 白山市明島町春130 ☎(076)273-0123

理事長 新村 康二 (一泉同窓会副会長)
(泉丘18期)

漆器の能作

代表取締役 岡 能久 (一泉同窓会副会長)
社 長 (泉丘20期)
取締役 海道 正人 (泉丘20期)
副 社 長本店 〒920-0962 金沢市広坂1丁目1-60
TEL (076)263-8121(代) FAX (076)263-8122



◆関東八泉会に20人集う

関東八泉会（泉丘8期）の同窓会が7月9日、東京・市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷」7階の「白山の間」で開かれた。今年は例年より出席者が減り、20人だった＝写真上＝。

宮丸凱史会長が欠席のため初参加の徳光金明君が乾杯の音頭を取り、引き続いて金沢から駆けつけた福田太睦八泉会代表幹事から母校の様子や金沢の近況を聞いた。懇親会ではいつものように思い出話や話題に花が咲き、旧交を温めた。最後は岡田絃美副会長から「体調管理に注意して、来年も元気に集まろう」とあいさつがあり閉会した。（荒木二夫・記）

◆泉丘関東九期会が春秋2回の同期会

泉丘関東九期会は毎年、春秋2回の同期会を開いている。22年の春は6月10日の午後1時から上野公園の韻松亭に30人が集った。2階座敷は緑に包まれ、「金沢にいるようだ」と言いながら初夏の午後を満喫した。金沢か



株式会社 北國新聞社

〒920-8588 金沢市南町2番1号
TEL (076)263-2111

ら出席した上丸満君の地元報告があった。その後有志で黒田記念室を訪ねて黒田清輝の名画「湖畔」を鑑賞、国際子ども図書館でお茶を飲んだ。幹事は岡野滋、福田嘉明の両君。

また、11月25日には港区霞町の三井倶楽部で秋の同期会を開催、31人が出席した＝写真＝。幹事の車信弘君の企画で、昼下がりの庭園でワイングラスを片手に優雅な時間を過ごした。岩下恵子さんの息子がこの倶楽部で結婚式を挙げた懐旧談など話は尽きず、名園の紅葉を眺めながら散策、往く秋を惜しんだ。次回幹事は木津克司君。（西島幸夫・記）

◆関西泉寿会が長谷寺散策会

関西泉寿会（泉丘10期）は5月29日、歩こう会「長谷寺散策」を行った。体調や膝の具合を心配したのか参加者は11人と少なかったが＝写真＝、仁王門から長い階段を上がって一息入れたときには鮮やかな緑に心を洗われ



るようで、みんな山々の素晴らしい眺めにしばし見とれていた。

10メートル余の十一面観世音菩薩に参拝し、五重塔を巡って下山、参道の店での昼食会では少々のアルコールも出て相当盛り上がった。次回の再会を誓って散会となったが、その後も有志で安倍文殊院まで往復4キロを歩き、日頃の運動の大切さを痛感した。

（宮本チハヤ・記）

玉川物産株式会社

代表取締役社長 玉川 昌範（一泉同窓会副会長）
社 長 泉丘31期

〒921-8816 石川県野々市町若松町19番5号
TEL (076)246-3000代 FAX (076)246-3100

◆泉寿会が和倉温泉で同窓会

泉丘10期・泉寿会の同窓会が8月26日、和倉温泉の「のと楽」で開かれた。2年ごとに行っているもので、今回は関東11人、関西8人、東海、富山各2人と地元組で58人が出席した＝写真＝。

初めに物故級友69人に黙祷を捧げ、林茂会長が歓迎のあいさつ、金子兵衛関東代表の乾杯の音頭で酒宴に入った。歓談の合間には和倉温泉に伝わる「鬼面太鼓」、北山百合子さんの歌謡舞踊の披露があり、恒例の大谷孝弘君のビンゴゲームで一段と盛り上がった。関



東泉寿会の鍋谷汎君、関西泉寿会の宮本チハヤ会長による活動報告もあり、校歌を大合唱、長瀬直義副会長の中締めで一次会を終えた。

続いて館内のカラオケ酒場貸し切りでの二次会、部屋に戻ってからの三次会と深夜まで話に花が咲いた。

この日は能登島GCでゴルフ大会、翌27日は34人参加で能登内浦観光を楽しみ、雄谷助成君経営のレストラン日本海倶楽部（能登町）での昼食会で地ビールと海鮮料理を堪能した。（中山一郎・記）

◆恒例の関東泉寿会新年会に36人集う

1月の最終日曜日恒例の関東泉寿会（泉丘10期）新年会が1月30日、いつもの日本出版クラブ会館で開かれた。金沢から泉寿会副会



長の長瀬直義君ら5人、兵庫県から宮本チハヤ関西泉寿会会長が駆けつけ、総勢36人の出席となった＝写真＝。

酒宴は木村征士君の乾杯の音頭で始まった。今年は加藤修君が高校卒業以来53年ぶりに初めて顔を見せ、しばらくは加藤君に話題が集まった。ビンゴゲーム、日本舞踊、フラダンスと元気が出る余興が続き、ふるさと土産の「かぶら寿し」に舌鼓を打ちながら有意義なひと時を過ごした。最後に校歌を歌い、大窪紀吉君の締めの話「限られた人生、深刻に考えずに楽しもう」に大喝采をして閉会した。（金子兵衛・記）

◆泉寿会本部でも恒例の新年会

泉丘10期・泉寿会本部恒例の平成23年新年会が2月27日、級友経営の「わかばやし別館」で開かれた。32人が元気な顔を見せ、「今年も泉丘のどの期にも負けない活動をしよう」と誓い合った。（中山一郎・記）

◆泉丘7期の同窓会開催案内

泉丘7期は今春、「古希+5年」記念同窓会を開催する。詳細は次の通りで多くの出席を呼びかけている。◇日時 平成23年5月12日(木)～13日(金)◇場所 粟津温泉「のとや」◇会費 18000円◇問い合わせ先 加茂正則（金沢市野町3-15-14、携帯090-3296-6034）

栄・加賀雪梅 醸造元
金沢中村酒造株式会社

代表取締役社長 中村太郎（一泉同窓会副会長）
（泉丘35期）

本社 〒920-0867 石川県金沢市長土堀3丁目2番15号
TEL (076) 248-2435 FAX (076) 248-2436

RYOKI

菱機工業株式会社

取締役社長 北川雅一朗（一泉同窓会副会長）
（泉丘39期）
専務取締役 北川 信重（泉丘21期）

〒921-8626 金沢市御影町10-7
TEL (076) 241-1141 FAX (076) 244-6888

一中45期・海兵3士官の戦記

昭和8年4月、桜咲き誇る金沢一中（金沢市本多町）に入学した45期生189人のうち、12年3月の4年終了をもって8人が上級学校へ進学した。一番人気の海軍兵学校（広島県・江田島）へ大野竹好、前川末次、八木田喜良の3人が、陸軍士官学校（東京・市ヶ谷）へ市村勲、高瀬源治、中川忠進の3人、地元の第四高等学校へは篠原一俊、平野民人の2人が進んだ。

海兵68期生として厳しい訓練に耐えた3人は、太平洋で戦争が始まった時にはすでに少尉に任官しており、最前線のラバウルに配属された。不思議なことに中国大陸、インド洋から太平洋と戦線が広がっていたにもかかわらず、3人が米軍との戦いに命をかけた戦域や時期が一致している。そこで3人の戦いの記録を追ってみた。

昭和17年から18年半ば過ぎまで日米両軍は中部太平洋のソロモン諸島海域や周辺の島々で死闘を続けた。その西端のラバウルに重要な日本海軍西南海域司令部があった。指令は一中13期の草鹿任一中将だった。基地にはいくつもの陸海航空隊（略して空）が駐屯していた。251空・204空と言えば零戦隊、582空は99式艦上攻撃機隊、702空は一式陸上攻撃機隊で出陣は数隊組み合わせで行われた。

攻撃機の護衛を最重要任務とする零戦は長距離航続力と格闘力を有し、米軍に恐れられていた。しかし、東へ1200キロのガダルカナル島までの往復を考えると同島周辺の戦闘時間は15分しかなかった。日本は連日、出撃令を発して同島を爆撃したが米軍の仕掛けた消耗戦に耐えられず、最初の撤退を余儀なくされたのであり、米軍にとって同島は反撃の起点となったところである。

金沢市新豎町出身の大野竹好中尉は昭和17年7月にラバウルの台南空（後の251空）に配属された。そこ

には撃墜で名を成す坂井三郎（個人撃墜64機）、西沢広義（同87機）、太田敏夫（同34機）、笹井醇一（同27機）らが所属していた。

零戦の大野に撃墜王の名が

大野は明晰な頭脳と優れた運動神経を有し、敵機を次々と撃ち落とし「若きりヒトホーヘン二世」と第一次世界大戦時のドイツの撃墜王にちなんだ呼称がついた。初撃墜の「ル・エアコブラ」を皮切りに18年6月末までに個人で8機、共同で45機を撃墜した。坂井らに比べて「少ないのでは一」との疑念がわくが、彼の戦闘期間が短すぎて比較できない。

戦闘機の最重要任務は攻撃機の護衛である。大野は日記に次のように記している。

「爆撃機を守り通すために戦闘機は自らを盾とせねばならなかった。降り注ぐ痕弾と爆撃機の間身を挺して敵の銃弾をわが身に吸収し、火達磨になって自爆する戦闘機の姿、

南海に散った前川と大野 共に昭和18年6月に戦死

それは悽愴にして荘厳なる神の姿であった」。

一方、金沢市松寺町出身の前川末次中尉は99式艦上爆撃機攻撃隊・582空に所属していた。582空では出撃ごとに仕官の死亡率が高くなり、昭和18年6月にはいると一段と加速した。わずかに残った仕官の中から次の指揮



金沢一中の級友たち。後列左端が前川末次、3人目が八木田喜良、右端が大野竹好（前川さん蔵）

官が選ばれる状況下で、前川も大野も隊の中での地位が急上昇していた。そんな中で運命の6月16日を迎えた。この日前川は582空戦闘指揮官の一人としてルンガ沖へ出撃した。大野指揮官も前川らの護衛のため24機の零戦を伴って出撃した。

空中戦では零戦が暴れまくって押し気味だったが、攻撃機は敵の艦船が多すぎて焦点を絞れないまま次第に打撃を受けていた。爆撃・雷撃を終え基地へ帰ろうとするところへ敵のグラマンが襲撃してきた。グラマンは日本機の2倍の重量があるので海面まで降りられない。海面すれすれは安全地帯なのだが、敵は4機編隊で交代に追いかけてくるので前川機らは逃げ切れない。スクールの幸運にも恵まれず、とうとう前川機は帰還しなかった。

それからわずか2週間後の18年6月30日、

墜落の八木田、九死に一生 一式攻撃機と同僚8人死亡

大野が帰らぬ人となった。

ソロモン海域の制覇を目指す米軍は間断なく攻め込んできた。敵大船団の来襲が報告されるたびに攻撃機隊と護衛機隊が飛び立つ。その日、ソロモン諸島レンドバ島上空へ出撃したのは583空と大野の251空24機。米軍は大編隊で日本機の現れるのを待ち構えていた。高所から急降下攻撃してきたロッキードを追い散らすと100機ほどのグラマンが姿を見せ、5機が先頭の大野指揮官機を襲ってきた。大野は巴戦を繰り返しながら戦ったがついに米駆逐艦の機銃で果てた。

大野の最後の様子は金沢一中以来の親友だった八木田喜良が聞き集めたものだ。

戦死者が一番多い一中45期

金沢市新保本出身の八木田中尉がラバウルの702空の分隊長・機長として到着したのは18年5月1日。一式陸上攻撃機は米軍からワンショットライターと呼ばれるほど防御弱体

一中創立の地、本町の西福寺境内にある大野大尉の墓



松寺町の町外れにある前川大尉の墓



機。主翼枠が油槽で驚くほどの航続距離があった。事実、その日は千葉県木更津基地から1日ばかりで飛行、45機が揃った。

6月12日、八木田は偵察飛行に出た。日本の制空圏の中で敵の4発大型機に遭遇、機関銃攻撃で応戦したものの、海上へ墜落した。機内で打たれた者2人、掃射で1人、脱出できなかった者1人。残った6人で泳ぎ始めたがフカに襲われて4人が死亡、生き残ったのは八木田ら2人だけ。まさに九死に一生を得たのだった。さらに幸か不幸か激戦続きで多くの戦友が南の空に散った6月は、治療中で出陣できなかった。

一中45期は卒業生の中で一番多い31人の戦死者を出した悲しい期である。卒業後海兵69期に入った越田喜佐久大尉（金沢市堀川町出身）も期せずしてラバウルの204空に配属され、18年7月17日、ソロモン諸島ヴァイン基地上空で戦死した。

八木田大尉は太平洋戦争を生き残り、戦後は航空自衛隊の幹部として活躍、平成16年8月10日、86歳で静に息を引き取った。長男の善昭さん（泉丘16期）は「父はいつも戦死した学友をはじめ多くの犠牲者のことを気にかけて、平和な時代を喜んでいて」と述懐する。

（参考資料＝神立尚紀著「零戦隊長 二〇四空飛行隊長宮野治郎の生涯」・光人社、丸別冊内・八木田喜良著「七〇二空中攻隊 ラバウルに燃え尽きたり」）

泉12期 遊泉会 高川先生の油絵を寄贈

泉12期のゴルフ同好会「遊泉会」の桑野晃久さんがこのほど、一泉同窓会事務局を訪れて高川義一さん（一中53期・泉丘2期、元泉丘高校教頭）の油絵「葉の花畑に浮かぶ母校」=写真=を寄贈した。

高川さんによると SM サイズ（縦15.5㍍×横22.5㍍）のこの油絵は、同じ松任出身で母校の同僚教諭・吉本明さん（一中52期）に頼まれて描いたもの。その後、吉本さんから「泉丘12期のゴルフ好きな連中にプレゼントした」と知らせてきたが、ほどなく吉本さんの

訃報（平成13年4月20日死去）が届いたので忘れることが出来ない作品だと言う。

一方、野球部だった桑野さんは監督だった吉本さんから「一中・泉丘精神を忘れるな」と高川さんの絵を贈られ、年3回のゴルフコンペで優勝カップと共にこの絵を持ち回っていた。しかし今年からコンペをやめることになり、同窓会に絵を寄贈することにしたものの。



一中・泉丘 各期の集い②



◆泉丘12期が卒業50周年記念同窓会

泉丘12期緑窓会の卒業50周年記念同窓会が10月16日、金沢駅前のホテル日航金沢で開かれた。県内外から108人が出席して、楽しい一夕となった=写真=。

林勝一さんの司会で始まり、緑窓会代表の泉匡隆さんが長年の友情と懐かしさを込めて開会のあいさつした。続いて68人の物故者に黙祷を捧げ冥福を祈った後校歌を斉唱、高田千恵子さんの乾杯の音頭で祝宴が始まった。

会場ははるか50年前の高校時代に戻って歓談の輪が広がった=写真=。全員が肩を組み

合って「高校三年生」や「星影のワルツ」などを歌って盛り上がり、最後に岡山県から駆けつけた渡辺勲さんが中締めをして、名残を惜しんでの閉会となった。

会場を変えての二次会も大いにたのしみ三年後の再会を約束して別れた。

（小林弘子・記）

◆泉丘13期・三六会も卒業50周年同窓会

昭和36年に泉丘を卒業した13期・三六会の卒業50周年同窓会が10月16日、金沢ニューグランドホテルで110人が出席して開かれた。

まず美郷尚・房田えつ子の両人の篠笛演奏、倉本守君の加賀宝生「四海波」が披露され、続いて上田昭会長のあいさつ、亡き級友45人に黙祷、倉田信孝君の乾杯の音頭で酒宴が始まった。

歓談の後、今村邦明君がピアノの弾き語り、石井栄男君が卒業アルバムをパソコンで大きく映し出し荒清峯夫君のリードで校歌を大合唱、飯倉亨・栗原紘治君の中締めで2年後の再会を約して散会した。（米田勇一・記）

泉丘27期 幹事会一同

北川 真	小森伊早子	光真 正夫
倉内 康博	寺田 郁夫	南 芳則
小島 晶子	松本 友信	森 耕二

※8月12日:27期ミニ同窓会を予定しています。

内科・脳外科・リハビリ科

此花診療所

院長 本 敦文（泉丘27期）

〒920-0852 金沢市此花町1番4号
TEL (076)261-5000 FAX (076)261-3330



◆泉丘関東14期が房総の館山で同期会

泉丘関東14期の平成22年度同期会が10月11日、房総最南端・館山の「いこいの村 たてやま」1泊で開かれた。金沢からの蚊谷八郎、泉屋利郎、高田和行の3君を含め男25人、女8人の33人が集う大盛会となった＝写真＝。

観光組はアクアライン経由で野島崎灯台などを散策、ハイキング組はJRを利用して鋸山に登り、ゴルフ組は館山カントリークラブで一汗かいての目的地入り。夜の宴会では昼の疲れもなんのその、再会を祝う酒杯と喜びの声でボルテージは上がりっぱなし。二次会に入って歌い手、聞き手が混然一体となったカラオケルームは何と3時間も貸切で、不夜城の観を呈した。

翌日は今回の最大の呼び物である「地引網」。ところが会場の岩井海岸に近づくと土砂降りの雨というハプニングに見舞われた。時折とどろく雷鳴にもめげず、泉丘生の心意気とチームワークで引き上げた網は大豊漁。新鮮さいっぱいの昼食会のころには青空も戻りすがすがしかった。

あっと言う間の2日間だったが、お互いの健康と幸せへの感謝の気持ちを胸いっぱい味わった。次回の再会を期して散会した。

(澤 良典・記)

◆泉丘14期が12月14日に忘年会

泉丘14期「一四会」恒例の忘年会が12月14日、金沢市主計町の鍋割烹「みふく」で30人が出席して開かれた。蚊谷八郎会長があいさつ、いつものように名物のカキ鍋に舌鼓をうった。今年は宴席に同町の芸妓2人を呼び華やいだ、そのうちの1人「ひな」さんは泉丘48期で東京女子大卒と分り一段と盛り上がった。

また、明けて2月14日にはこれも恒例の新年会を東山1丁目の「ちょう吉」で行い、23人が出席して絆を深めた。(宍戸 範・記)

トピックス

「甲子園目指して頑張れ!」。一中



55期で野球部OBの下村佳生さん(東京・小金井市)＝写真＝から、平成22年度も公式ボール半ダースが贈られて来た。同窓会事務局では前期中間試験終了後の練習開始日となった6月21日、67人の野球部部員が円陣を組む中で小国和樹主将に手渡した。

今年も野球部にボール寄贈

一中55期の下村さん

下村さんは強打者の捕手。在学中のチームは京都の名門・平安中学を破るほど強かった。それだけに後輩たちの5度目の甲子園出場にかける願いも強く、昨年が続いてのボールの寄贈である。

小国主将がボールを受け取ると部員たちは「ありがとうございます」と頭を下げ、グラウンドに飛び出して熱のこもった練習を開始した。



おおみぞ内科・皮膚科クリニック

院長 大溝 了庸 (泉丘27期)

副院長 大溝由香里 (泉丘29期)

〒920-0922 金沢市横山町 8 番41号
TEL (076)224-0033 FAX (076)224-0039

歯科・小児歯科

竹下 歯科 医院

院長 竹下 亨文 (泉丘27期)

〒920-0862 金沢市芳青1丁目6番35号
TEL (076)263-1441 FAX (076)263-2022



◆泉丘18期「おはこ会」が同窓会

泉丘18期の第12回「おはこ会」同窓会が8月14日、山代温泉「吉田屋山王閣」で開かれ、50人が参加した。ほかに来賓として恩師の楠禎一郎先生と安高 徹先生のご参加をいただいた＝写真＝。

記念撮影の後、この3年間に他界した学友に黙祷を捧げた。ついで笠間 啓君の謡と司会で会が始まった。代表幹事北山吉明君のあいさつの後、楠先生の乾杯で宴会となった。今回は「いきがい披露」と銘打って同期生の日頃の活動を披露していただく特別プログラムを組んだ。当日は北山君（石川県）の篠笛演奏、喜内敏夫君（栃木県）のスペシャルオリンピックスへの支援活動、そして松井 亮君（北海道）のケーナ、サンポーニアといった南米の民俗楽器の演奏が披露された。

3年ぶりの再会に話が尽きない中、安高先生の中締めで一次会は終わった。二次会ではカラオケで懐かしい歌や新しい歌を楽しみながら親交を深めた。なお、「おはこ会」は次回から毎年開催することになり、第13回は平成23年4月29日に金沢駅前のガーデンホテルで開催する。（北山・記）

◆泉丘19期が恒例の同窓会

8月14日恒例の泉丘19期同窓会が金沢駅前の「金沢茶屋」で安宅雅夫君の黄綬褒章受章のお祝いを兼ねて開かれ、出席した24人は一

年ぶりの再会を大いに楽しんだ＝写真＝。

山下一夫会長の開会のあいさつの後、2年間の会計報告などを了承、高桑和子さんから安宅君にお祝いの花束が贈られた。続いて勝山喜義副会長の乾杯で懇親会が始まり、一人ひとりが近況を報告した。最後に日向三郎君のリードで応援歌、校歌を高らかに歌い、「来年も元気で集まろう」と約束して散会した。（山下一夫・記）



◆泉丘21期が還暦記念同窓会

泉丘21期の還暦記念同窓会が8月15日、金沢ニューグランドホテルで開かれた。「一泉同窓会総会」の幹事期だった平成14年以来8年ぶりの集いとあって、旧盆帰省組も含め106人が出席して旧交を温めた。

まず、恩師の普神貴行、安高 徹の両先生を囲んでクラスごとに記念撮影、続いて山本隆文君の司会で亡き級友に黙祷を捧げ、幹事代表の柏野博英君があいさつして酒宴に入った。

久しぶりの顔合わせで近況報告から始まり、懐かしい高校時代に話しが移って会場は大賑わい。校歌は大合唱となった。澤 滋君の閉会のあいさつで5年後の再会を誓った。ホテル最上階のラウンジでの二次会に80人余が残り、名残を惜しんだ。（北川信重・記）



北川ヒューテック株式会社

代表取締役 北川 義信 (泉丘15期)

代表取締役 北川 真 (泉丘27期)

〒921-8584 金沢市神田1丁目13番1号 TEL (076)243-2211 FAX (076)247-2145



◆泉丘22期が卒業40周年同窓会

泉丘22期は9月11日、金沢スカイホテルで卒業40周年の記念同窓会を開いた。出席した72人は恩師の楠禎一郎、普神貴行、清水郁夫の3先生を囲み、昭和45年の卒業時から今日までの思い出話に花を咲かせるなど盛会だった=写真=。

初めに22人の亡き級友と担任の3先生に黙祷を捧げ、続いて池田直己代表幹事と恩師代表の普神先生があいさつ、清水先生の乾杯で懇親の宴が始まった。歓談の合間には同窓会本部に残る一中・泉丘117年の歩みを8分ほどにまとめたDVDが映し出され、母校の様子を懐かしんだ。中締めは楠先生が行い、応援団長だった嶋 範也君のリードで校歌を合唱、来年9月3日の「還暦同窓会」での再会を誓って散会した。この後はクラス別に集まって片町などでの二次会を楽しんだ。

翌12日は片山津ゴルフ倶楽部加賀コースで記念ゴルフ大会を開催、東京から参加の稲垣有司君が優勝した。(清水義博・記)

◆泉丘28期「関東ふたば会」が同窓会

関東近辺在住の泉丘28期「ふたば会」は6月12日から13日にかけて、伊豆半島のラフォーレ修善寺で1泊2日の日程でゴルフコンペを兼ねた同窓会を行った。

ゴルフ組の4人は12日にプレーをしたが、

久しぶりの顔合わせで1ホール目から爆笑の連続、ボール以上に笑い転げた18ホールだった。残りの5人は後から合流、合計9人(男6人、女3人)の宴会はコテージでの自炊で珍料理あり、カラオケありで学生時代を思い出しながら深夜まで楽しんだ。翌日の小田原散策は、あいにく目的の店が満員で入れず残念だったが、昼食後、名物の乾物など土産に買って散会した。(谷村和彦・記)

◆泉丘30期、一泉総会の予行演習

泉丘30期の同窓会が1月2日、金沢駅前のホテル日航金沢で80人が出席して開かれた。30期は今秋10月15日開催の「創立118周年記念一泉同窓会」の運営担当期であり、受付から本番を想定してのシミュレーションで行い、過去最高の同窓会の演出を誓い合った。

懇親会では実行委員長の小原 繁君があいさつ=写真=、実行副委員長の藤邑宏克君の乾杯に続き各委員から秋に向けての決意が表明された。また、司会も本番を務める美本昌文君と山本孝代さんが名コンビ振りを発揮、いい感じで会が進んだ。

懐かしい顔が沢山そろい、みんな昔に戻って楽しい時間を過ごした。中締めの後、ホテル上階のラウンジで二次会を行い、再度盛り上がった。(中田 誠・記)



なからい小児科クリニック

院長 半井 孝幸 (泉丘27期)

〒920-1151
金沢市田上第5土地区画整理地10街区1番
TEL (076)234-1200 FAX (076)234-1222



興南建設株式会社

一級建築士・一級建築施工管理技士

代表取締役 南 芳則 (泉丘27期)

本社 〒920-0942 金沢市小立野3丁目7番14号
TEL (076)223-1238 FAX (076)223-1248



◆泉丘31期が次期主幹事へ結束固め

泉丘31期の北陸3県在住者による同窓会が1月22日、金沢市片町の「阿咩」で44人が出席して開かれた＝写真＝。

一泉同窓会の副会長に選任された玉川昌範君が「昨秋の関東一泉同窓会は、わが31期の関東在住者が幹事を務め大盛会だった。これを機に4年ぶりに同窓会を開催した」とあいさつ、関東の実行委員長だった賀谷梅吉君が来年の一泉同窓会の運営に対して激励の言葉を贈った。続いて勝田宏也君が来年の総会幹事期に向け、連絡・参加を呼びかけて乾杯した。すぐに会場のあちこちで昔のあだ名で呼び合って、思い出話に花が咲いた。卒業以来32年ぶりに再会した面々もあり、2次会にも多数が出席した。(柿本和久、久保聡・記)

◆泉丘36期が4年ぶりに同窓会

泉丘36期の同窓会が8月14日、4年ぶりに金沢エクセルホテル東急で開かれた。恩師の畠中正樹、畑野 禎、中橋大通、加藤茂芳の



耳鼻咽喉科 安田医院

院長 安田 健二 (泉丘27期)

〒921-8154 金沢市高尾南3丁目18番地
TEL (076)296-0960 FAX (076)296-0699

4先生を加え73人が集った＝写真＝。懐かしい仲間や先生方との再会に楽しいひと時を過ごした。

時間は「あっ」という間に経ち、最後に校歌を斉唱した。これから我々はシニアへの道を歩いていくが、仲間たちから元気ももらって力強く前進しようと誓った。ホテルのあと二次会、三次会と続いても時間が足りない感じだった。(高宮一朗・記)

◆泉丘38期が卒業25周年の同窓会

泉丘38期の卒業25周年記念同窓会が1月2日、金沢駅前のANAクラウンプラザホテルで開かれた。正月中とあって北は岩手県、南は福岡県からと78人の懐かしい顔が揃い、深夜まで別れを惜しんで楽しんだ。3年前の出席者は28人だったが、今回は3倍近い集いになった。

幹事代表の久慈晴子が歓迎のあいさつを述べ、吉沢 都さんの乾杯の音頭で宴会が始まった。初参加の人も多くしばらくは近況報告が続いたが、卒業アルバムや3年次の活動を綴った「溪泉」を持参した級友がおり、「〇〇君、こんなこと書いているよ」などと25年前にワープして一挙に盛り上がった。

続いて幹事で考えた「高校生思い出クイズ」が行われ、先生のあだ名当てなど面白い出題に会場は笑いの渦に包まれた。さらに、最優秀賞に輝いた3年6組の野外劇ビデオがスクリーンに映し出され、全員が食い入るように眺めた。3時間半の懇親の宴はよみがえる思い出の連続で、38期の絆が一段と強まったひと時だった。

片町での二次会、三次会にも多くの級友が参加、誰からともなく「近い内にまた集ろう」の音が聞かれた。(久慈晴子・記)



医療法人社団 橘会

整形外科米澤病院

副院長 米澤 孝信 (泉丘27期)

〒920-0848 金沢市京町1番30号
TEL (076)252-3281 FAX (076)252-8316

《一泉同窓会会長を歴任》

平成22年3月16日、川北 篤先生がご逝去された。享年79歳。医業の傍ら、石川県や金沢市の音楽文化の発展のみならず県医師会、ライオンズクラブなど各界の役職を歴任され、人々の幸せのために生涯を尽くされた気高い人格者であった。

川北先生は、平成7年10月16日から同11年10月15日まで2期4年間、一泉同窓会会長を務められた。氏は昭和24年3月の泉丘高校第1期卒業生で、在学中のちに県教育長の要職に就かれた同期の小村良智氏らと共に泉丘高校音楽部を設立され、これが川北先生の音楽活動の端緒となったと思われます。

金沢大学医学部を卒業され、父君が創設された川北病院をさらに大きく隆盛され、患者から親しまれ信頼される仁徳の医師として、まさに医道を実践されたこととはご承知のとおりです。

《チェロを演奏し指揮も執る》

私が昭和37年に泉丘高校音楽部に入部したころ、チェロを演奏し、指揮もすると言う大先輩の川北ドクターがいることを知り、その後互いの音楽活動を通じて親交を得、先生の一途で温かく包容力のある人間の大きさに心酔し、その後勝手に川北 篤の弟子を自認してきた次第です。

金沢室内管弦楽団や金沢チェロ・ソサエティーの設立、石川県音楽文化協会理事長としての出色の活動など石川県の音楽文化振興のために寸暇を惜しんで牽引されました。その業績に対し平成8年には石川県文化功労賞、同12年には文部科学大臣表彰を受賞され、21



在りし日の川北 篤先生

川北 篤先生を悼む

石川県立 山腰 茂樹 (泉丘 17期)
音楽堂館長

年春の叙勲では「旭日双光章」(医療功労賞)受章の栄誉を賜りました。

《OEK 設立に大きな力》

昭和63年のオーケストラ・アンサンブル金沢 (OEK) 設立に奔走され、その後、音楽監督岩城宏之の盟友として10回にわたるOEK 海外公演に無償で随行して、岩城宏之や楽団員の健康管理を気遣い、ある時にはメスを使って治療することもありました。海外公演リハーサルの折、岩城からタクトを渡され、ベートーヴェンの交響曲第7番ほか4楽章の指揮を任されるなど、岩城宏之の信頼が厚く、「ドクター・イン・レジデンス」の称号を授与された。OEKの成長発展に対する川北先生の貢献には特別のものがあつた。石川の音楽界にとってなくてはならない方を失った。ご冥福をお祈りする。



株式会社 東洋設計

代表取締役 坂野 俊紀 (泉丘 21期)
常務取締役 山本 登資夫 (泉丘 24期)
取締役管理本部長 森 耕二 (泉丘 27期)

本社 〒920-0016 金沢市諸江町中丁214番地 TEL (076)233-1124 FAX (076)233-2113

投稿二題

平成21(2009)年6月、京都・鴨川畔の料亭「ちもと」で金沢一中54期生の集い・関西朱木会が開かれた。幹事の宮崎欽也君が級友の京都大学名誉教授・山田善一君の叙勲を祝って開催したもので、金沢から真宗大谷派東本願寺前宗務総長の木越 樹君らが駆けつけ、東京からは私が参加して、この慶祝の宴を讃える漢詩を作詩し朗読させてもらった。さらに隣席の木越君に係わる東本願寺平

成大改修の完遂を讃える漢詩を作詩した。

山田君に贈った詩はすでに学会会報などに発表済みだが今一度披露したい。

〈学友叙勲慶祝宴——贈山田善一君〉

洛水紫瀾橙煥紛 黄冠賀宴緑醇薫
追懐紅顔黒瞳耀 朗唱青春騰白雲

(洛水の紫らんに橙煥まじり 黄冠の賀宴に緑醇薫る 紅顔と黒き瞳のかがやきを追懐し 朗らかに青春を唱えば白雲騰る)



卒業して以来一度も一泉同窓会に出席したことのなかった私が、何のご縁か幹事期の泉丘29期の一員として平成22年度一泉同窓会総会・懇親会の実行委員会に参加させていただくことになった。メンバーの中には卒業以来32年ぶりに顔を合わせる人はもちろん、「初めまして」?の人もいて、伝統ある一泉同窓会の幹事というプレッシャーが加わり、やや緊張気味に始まった実行委員会だった。だが、懐かしいおんぼろ校舎、名物だった怖〜い英語の先生やおもしろい古典の先生の

話などで盛り上がり、多感な時期の共通の思い出を持つ同級生たちが打ち解けていくには時間はかからなかった。

実行委員会は前年度の一泉同窓会終了直後から1~2カ月に1度開かれ、右往左往、行きつ戻りつしながらも少しずつ前に進み、なんとか同窓会当日を迎えた。出席者700人のうち同期98人の出席が得られた。一生に一度しか回ってこない幹事というお役を頂戴し

友の活躍を称え漢詩贈る

一中54期 糸多 宗人



この七言絶句は各句に二色、計八色の色彩を現す文字を入れた。詩の形での言葉の遊びでもある。山田君の土木工学上の功績や実績については専門家の解説を期待している。

〈慶祝東本願寺大改修完遂——贈木越樹君〉

将成修築大伽藍 遠襲平成不況嵐
宗務総裁全統括 適時完遂拳歎湛

(将に修築成らんとす大伽藍 にわかにも襲う平成不況の嵐 宗務の総裁は統括を全うし 適時の完遂こそぞりて歎びたたえる)

山田君とは1年4組、木越君とは4年4組で同級だった。そんな個人的なことよりもこれらの詩は、戦中戦後にまたがる混乱期でも我々同級生たちの若き日の意気と熱がその後の活躍と貢献の基盤を形成したことを歌いつつ、「泉が原に聳え立つわれらが学び舎」で母校の輝かしい伝統と誇りを胸いっぱい吸い込ませていただいた幸運への感謝を、私は示したかったのである。

投稿二題

たのだから、多数の同期生の参加を得て盛り上げたいという熱意が同級生みんなに伝わったに違いない。素晴らしい会だったと先輩方におほめの言葉もいただいた。

会が無事に終わり、次の幹事期へバトンを渡す。引継ぎの会での「終わった、終わった」と小躍りしたくなるような開放感には寂しさも混ざっていた。そしてもう来年の同窓会を楽しみにしている自分に気づき、思

同窓会の楽しさを再確認

泉丘29期 東 尚世



わず苦笑する。私だけではない。来年も同窓会に参加したいという声をたくさん聞いた。遠方にいるため定年になったらゆっくり参加したいという仲間もいる。

定年まではまだまだ時間があるが、悠々自適の身になったら、前日に同期の皆でまず温泉にでも行き、翌日その足で一泉同窓会に出席するなんていいかも、と勝手に十年先に思いを馳せ、にんまりしているのだった。

文化・運動部 OB 会だより

38回目の一泉櫻美会美術展

第38回一泉櫻美会美術展が7月6日から11日まで金沢21世紀美術館で開かれ、一泉同窓生や多くの美術愛好者が鑑賞に訪れた＝写真＝。今回は金沢一中・泉丘高校OBの会員49人の作品62点と現役生22人の作品22点が展示された。

最高齢の村田尚一さん（一中39期）はギリシヤ・イドラの港を描いた油絵、陶芸の大樋勘兵衛さん（同52期）は大樋茶盃、院展会員の薄波靖子さん（泉丘6期）の日本画「帽子の婦人」は珍しく日本人をモデルに仕上げた



もの。漢詩の掛け軸「中秋侍公譙有感」を出品した山川孝さん（一中49期）は、今年も出展者全員の名前と作品の名札を書き上げて元気なところを見せた。

他にも水墨画、パステル、写真、パンフレター、刻字、紙漆工芸、アクリル、つぎはぎ細工、工芸、ちぎり絵と多岐にわたる作品は、鑑賞者の目を十分に楽しませた。

◆小品展には33人が出展

一泉櫻美会の第34回小品展が10月1日から6日まで金沢市泉野出町4丁目のグリーンアーツギャラリーで開かれ、色鮮やかな油絵や

書など力作40点が来場者を楽しませた。旧職員や一中47期から泉丘31期までの会員33人が出展した。

昨秋のスケッチ旅行で訪れた七尾市のお熊甲祭を題材にした水墨画や油絵をはじめ、大樋焼の抹茶盃、写真、刻字、粘土工芸、ガラスアートなど作品の多彩さが話題を集めた。

野球部 OB 会 会長に宮地氏(泉丘23期)



一泉野球部OB会の第13回総会が8月10日、金沢エクセルホテル東急で27人が出席して開かれた。

最初に物故者の冥福を祈って黙祷を捧げた。総会は野々市孝会長（泉丘10期）が議長に就き20、21年の2年間の事業報告と会計報告を了承、役員改選では野々市会長の退任と宮地治氏（同23期）＝写真＝の新会長就任を満場一致で決めた。また、規約の一部改正が承認された。引き続いての懇親会では宮地新会長があいさつ、母校の浅田秀雄校長が祝辞、北本正伸野球部監督（同42期）が部の近況報告を行い、中尾治郎新副会長（同17期）の発声で乾杯して酒宴に入った。各時代の思い出話で盛り上がり、高田直人新副会長（同28期）の閉会のあいさつで散会した。

平成22年・23年の主な役員は次の皆さん。

○印は新任。◆顧問 米谷 半平(一中50期)、○山崎昭一郎(泉丘4期)、○野村 稔(5期)、○野々市 孝(10期)、○押田 邦夫(11期)、○石田 武美(12期)、○小森 勝範(16期) ◆会長 ○宮地 治(23期) ◆副会長 ○中尾 治郎(17期)、○高田 直人(28期)、○一 貞行(29期)

(池田光一＝泉丘25期＝記)

印刷/事務機器・事務用品販売/WEB制作



株式会社 **山越**

<http://www.kai-p.co.jp/>

代表取締役社長 **山越 昭雄**(泉丘11期)

■コンテンツ事業部
〒920-0001 金沢市千木町ル70-1 TEL(076)257-9111(代) FAX(076)257-9119
■メディア事業部・総務部
〒920-8665 金沢市兼六元町3-78 TEL(076)222-1144(代) FAX(076)262-5577



印刷・出版・マーケティング・eビジネス

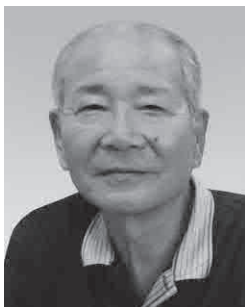
株式会社 **橋本確文堂**

代表取締役社長 **橋本 勝郎**
(泉丘12期)

営業本部 〒921-8025 石川県金沢市増泉 4-10-10
TEL: (076)242-6121 FAX: (076)243-7945
東京支店 〒105-0013 東京都港区浜松町 1-18-12
www.mba.co.jp TEL: (03)5472-7030 FAX: (03)5472-5101

日本泳法の游術継承者 石田 健先生を偲ぶ

泉泳会顧問で石川県水泳協会参与の石田健先生（泉丘4期）が、平成22年4月4日に亡くなった。享年76歳だった。



石田先生は県水協初代理事長の阿部壮次郎氏から日本泳法清記流矢野派の游術を継承して50有余年、中でも大旗振りは右にでる者なしの存在だった。

一中・泉丘水泳部OBの泉泳会が石田先生の游術を学び、後世に残そうと百万石日泳会を立ち上げたのは同18年3月のこと。紐野義昭県議（同26期）、向川勇泉泳会会長（同1期）、野崎邦明日泳会初代幹事長（同8期）らの努力もあり、一般の人も含め20人が集った。石田先生には週1回のペースで指導を受け伝承・普及・定着を目標に練習に励んだ。

お陰で百万石日泳会は全国各地で開かれる日本泳法大会や日本泳法研究会に出場、県内各地の水泳大会や海開きなどにも参加して練習の成果を披露している。

奥深い泳法は戦前のロスアンゼルス五輪で日本勢の活躍をもたらし、今日の日本水泳界の礎となり、川や海での水難事故防止にも役立っていると言われる。

体調を崩し入退院を繰り返しておられるころ石田先生を見舞った。指導時の厳しい顔と違い、見たことのない穏やかな顔で泳法の話に聞き入っておられた姿が忘れられない。

昨秋の「ねりんピック2010石川 水泳交流大会」では亡き先生の奥さんや遺族の皆さんに、我々の公開演技を観ていただいたことは何よりだった。これからも先生の教えを守り、百万石日泳会の発展に尽力したいと心から願っている。

石田先生のご冥福を改めてお祈り申し上げたい。

（百万石日泳会幹事長

宮西外志男＝泉丘9期・記）

OB 講演会から

「社会人と語る会」に5先輩

田嶋敏行さん



中村里華さん



杉盛千春さん



稗島律子さん



辻 明士さん



松本雅光教諭



平成22年度の「社会人と語る会」が12月3日、2年生を対象に啓泉講堂で開かれた。

パネリストとして招かれたのは金沢村田製作所の田嶋敏行課長（泉丘38期）、薬剤師の中村里華さん（40期）、富山赤十字病院の杉盛千春医師（41期）、ハーブ奏者の稗島律子さん（同）、戸水法律事務所の辻 明士弁護士（44期）の5先輩。コーディネーターは松本雅光教諭（38期）が務めた。

5人はそれぞれ①出身大学を選んだ理由②現在の仕事の魅力③後輩に期待すること—などについて話し、「将来の目標を速く決め、現在の自分の位置を把握して対策に取り組めば必ず展望は開ける」と励ました。

進路決定の参考にするため、生徒たちからも熱心な質問が相次いだ。

母校で金融セミナー 泉丘28期 橋本さん

泉丘高校3年の文型生徒144人を対象にした金融教育セミナーが6月7日、啓泉講堂で開かれ、北國銀行金沢南部エリア統括店長兼泉支店長の橋本克己さん（泉丘28期）＝写真＝が講師を務めた。



橋本さんは「金融に関わる犯罪とその対処について」と題して講演、犯罪問題だけでなく、大学に進学すると4年間で1千万円以上のお金が必要となる。だから親に感謝して生活することが大切であり、無駄遣いをなくすため小遣い帳をつけようとした。

岡村芳樹君

徳川詩織さん

田原弘章君

山口敦己君

東 祐香さん

一
泉
賞

22年度は5人に贈呈

平成22年度「一泉賞」が3月4日の全日制卒業式の席上4人に、同6日の通信制卒業式で1人に清水義博一泉同窓会会長から贈呈（賞状とトロフィー、副賞の図書カード1万円分）された。同6年に100周年記念事業の一つとして設けられたもので、在学3年間を通じ学業と課外活動を両立させた生徒に贈られる。

今年度の受賞者は次の皆さん。

◆岡村芳樹君 入学当初から新聞部の活動に熱心に取り組み、3年間石川県高校新聞コンクールで最優秀賞、また全国でも1年次は1位、2、3年次は6位入賞など各賞受賞に貢献した。カメラ・コンピューターの技術に優れ、部長としての職責もよく果たした。

◆徳川詩織さん 何事にも真摯に取り組み成績も全教科にわたって優秀。ESS部では部長として熱心に活動し、特に2年次には英語スピーチコンテスト県大会、東海北陸大会1

位、全国大会でも2位という素晴らしい成績を収めた。

◆田原弘章君 全教科をまじめに学習しているが特に理科に関心が高く、2年次では物理チャレンジで銅賞、3年次で銀賞を獲得する一方、高校化学グランプリでは大賞（全国で5人）に輝いた。ESS、アドバンスト数学部などにも所属、熱心に活動した。

◆山口敦己君 文芸部で1年次から活躍して俳句甲子園に出場、2年次では同大会全国ベスト12、3年次には3位に躍進したほか個人でも特別賞（ひめぎん賞）を受賞した。クラス会長としてもリーダーシップを発揮して、中心的役割を担った。

◆東 祐香さん まじめに学習に取り組む傍ら3年間、生徒会の役員として活躍した。特に「青春のこだま」の生徒審査委員長、北陸3県交歓会でのホスト校役、中部地区生活体験発表会・学園祭シンポジウムでは司会役と大役を次々と果たした。

中村さん(泉丘_{29期})「環境」で講演

平成22年度高校生ボランティア講座の実施校に選ばれた泉丘高校で6月24日、環境ボランティア講演会が開かれた。



講師は泉丘29期中村早苗さん＝写真＝。

中村さんは環境省登録の環境カウンセラー、石川県地球温暖化防止活動推進員、省エネルギー普及指導員の資格を有する市民活動家。

母校・啓泉講堂に集った1年生401人に対し、日常的に無理なく取り組める環境保全活動についてスライドを使いながら分かりやすく説明した。また、環境問題は人権問題でもあるとして、現在の生活が今後の生活に影響を及ぼすことがあってはならないと訴えた。

台湾旅行で事前講師 泉丘8期の
中川さん

平成22年度の国際理解講演会が1月27日、母校の啓泉講堂で修学旅行の事前研修を兼ねて開かれた。講師は八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会世話人代表・事務局局長の中川外司さん（泉丘8期）＝写真＝



と中川さんの知人で金沢大学留学生・金湘斌さん（台北市・建国高級中学出身）の二人。

秋に訪台する1年生400人に対し中川さんは、金沢一中の大先輩・八田與一さんが今も台湾の人々に尊敬され、慕われていることについて語り、続いて金さんが台湾の少数民族の暮らしや建国中学生の勉強ぶりを紹介、しっかり交流してきてほしいと話した。

母校だより



八田與一先輩の偉業を実感 2年生が初の台湾修学旅行

泉丘高校2年生354人が10月5日から8日まで、修学旅行で台湾を訪れた。同校の修学旅行では初めての訪台で、金沢一中11期の大先輩・八田與一技師が造った烏山頭ダムの見学や墓参を通して先輩の偉業に思いを巡らせたほか、台北市の旧制台北一中・建国高級中学校（高校）と交流した。

初日の5日早朝、学校前をバスで出発した一行は関空から夕方台北に到着、泉丘8期中川外司さんが尽力した亜東関係協会の彭榮次会長と会見して講演を聴き、次いで台湾の芸能・京劇を鑑賞した。

2日目の6日は新幹線で台南市へ移動、2班に分かれて市内や烏山頭ダムを見学した。ダムサイトでは八田技師の墓と銅像にクラスごとに献花＝写真上＝、不毛の嘉南平野を台湾一の穀倉地帯に変えた技師が、今でも地元民から慕われて国境を超えた存在になっていることを実感した。



台北市へ戻った3日目の7日は建国高校を訪れて交流した＝写真左下＝。同校は台湾でトップの学力で知られる公立男子校。丁度休み時間で『熱烈歓迎』とばかりに、生徒たちが一斉に教室から出てきて歓声を送った。交流会では建国高校の生徒がコマ回しの曲芸で歓迎、泉丘の生徒は日本舞踊や応援団による三三七拍子などを披露した。両校の生徒たちは一対一で英語で語り合い、進路など共通の関心事で話しが弾んだ。特に女子生徒の人气が高く、携帯電話のカメラで一緒に写真を撮る光景も見られた。

最終日の8日は帰国の途に着き、関空、北陸道経由で夕方、全員元気に帰校した。

泉丘高校では台湾修学旅行の感想文集（A4版30頁）を制作、2年生全員に配布して思い出とした。



生徒ホールが「安らぎ空間」に

泉丘高校は昨年11月、生徒玄関に対面する生徒ホールを「生徒の安らぎ空間」に模様替えした＝写真上＝。

280平方メートルの同ホールは隅に重たい長いすがあるだけで、雨天や冬場は運動部の練習場に利用されていた。学校の中には2階から5階までの水飲み場に共用の学生ホールがあるが、生徒が落ち着ける場にしては狭かった。

そこで1階の生徒ホールに気持ちや和らぐ曲線テーブル10台といす55脚を設置、窓側だけでなく廊下側にもカーテンを取り付けた。さらに冬場は大型ストーブ2台を入れ、暖房にも配慮した。弁当持参の生徒たちは昼休み時間に早速利用、放課後は勉強室になった。

教室や食堂とも異なる多目的空間の出現は生徒たちに大好評だ。

平成22年度一泉文庫寄贈・購入本

書名	著者	購入・寄贈者
金沢一中・泉丘高校水泳部創部80周年記念誌	水泳部OB会・泉泳会	寄贈・泉泳会
詩集 加賀友禅流し	徳沢愛子(泉丘9期)	寄贈・徳沢愛子(泉丘9期)
詩集 みんなの日	同上	同上
随想 愛は絶えることなし	同上	同上
方言あそび歌とエッセイ 金沢ふるさと花いちもんめ	同上	同上
金沢方言第二詩集 いちくれどき	同上	同上
水曜日記 重症心身障害児病棟から	同上	同上
暁烏 敏全集27巻・別巻	暁烏 敏全集刊行会発行	寄贈・松本武雄(一中45期)
金沢一中での思い出(付・特別科学学級関連資料)	米田 彬(一中57期)編	寄贈・米田 彬(一中57期)
判 三教 作品集	判 三教(泉丘3期)	寄贈・判 三教(泉丘3期)
写真アルバム 金沢の昭和	いき出版	寄贈・いき出版
「朱木」第9号	金沢一中54期同期会	金沢一中54期同期会
ユーラシアを駆け抜けた王「聖徳太子と継体天皇」	中川昭秀(泉丘13期)	寄贈・中川昭秀(泉丘13期)
外科医 高倉了治の誠実な殺人	金丸 仁	寄贈・川北 哲(泉丘29期)
裁錦會詩集 第十集	糸多宗人(一中54期)ほか	寄贈・糸多宗人(一中54期)
「親日」台湾の幻想	酒井 亨	寄贈・中川外司(泉丘8期)
梶井基次郎「檸檬」の諸相	西田谷 洋(泉丘37期)ほか	寄贈・西田谷 洋(泉丘37期)
政治小説の形成	西田谷 洋(泉丘37期)	寄贈・西田谷 洋(泉丘37期)
ザ・グローバル論語	著・翻訳・監修 谷 学	寄贈・吉田 徹(泉丘28期)
図録集「泉幣流布」	司徒 光(瀬戸 光・泉丘18期)	寄贈・瀬戸 光(泉丘18期)

通信制だより



3県の通信制生徒が交歓会

北陸3県通信制高校交歓会が7月17日、能美市などを会場に開かれた。泉丘高校＝写真＝のほか富山県の雄峰高校、福井県の道守高校から各20人の60人が参加した。

白山市の白山青年の家に集まり開校式や学校紹介、自己紹介を行った後、バスでいしかわ動物園へ移動して見学、昼はバーベキューを楽しみ、午後は九谷陶芸館で皿や湯飲みの絵付け体験をした。泉丘通信制の生徒たちが積極的に世話をして同じ通信制に学ぶ仲間同士の交流に貢献した。

活躍する後輩たち

通信の森さんに厚労大臣賞

中部地区通信制高校生徒生活体験発表会が9月26日、泉丘高校の啓泉講堂で開かれ、同通信制七尾サテライト2年次の森さやかさん＝写真＝が「自分を見つめ直して」と題して発表、見事最優秀賞に輝いた。

森さんは中部代表として11月21日、東京で行われた定時制通信制の全国大会に出場、厚生労働大臣賞を受賞した。

◆通信制男子バスケ、惜しくも準優勝

6月12日に開かれた石川県定時制通信制体育大会のバスケットボール競技で優勝した泉丘通信制の男女チームは、7月28日から31日まで東京体育館で開かれた全国大会に出場した。男子は6試合目の決勝で敗れ、惜しくも優勝を逸した。

全国大会準決勝で東京の足立高校を68-63で破った泉丘は、決勝で兵庫の西宮香風高校に62-87で敗れた。女子はベスト16に進出したが茨城の明秀日立に21-81で敗北した。



東大13人、京大に21人合格(前期)

東大、京大など国公立大の前期入試合格者が3月10日までに発表され、泉丘から東大に13人(現役8人)、京大に21人(同18人)が合格した。東大合格は4年連続県1位で6年ぶりに現役が理科Ⅲ類に合格するなど現役生の健闘が光った。

その他の有名国公立大では名大12人、阪大11人、東北大、北大各9人、神大7人、東京工大4人、一橋大3人、九州大1人、富大に6人が合格した。

また金大は昨年より5人多い76人が合格、うち医学部は15人。今年は医学部を目指す生徒が多く、私大を含めた医学部合格者は35人で昨年の2倍以上となった。



吹奏楽部が今年も慰問演奏

泉丘高校吹奏楽部の慰問演奏会が10月10日、金沢市円光寺3丁目のデイサービスセンター朱鷺の苑円光寺で行われた=写真=。

部員49人が息の合った演奏で「いい日旅立ち」や「赤とんぼ」を披露、同苑利用者や近所の人たち約100人を楽しませた。

英語部が実力を発揮

石川県高文連英語部の第5回スピーチコンテストが9月20日、金沢市の県文教会館で開かれ、「個性の真の意味とは」と題して話した泉丘1年の中川恵さんが1位になった。

また11月4日、富山市で開かれた金沢、富山、福井育英センター第11回英語スピーチコンテストでは、泉丘2年の森重有里彩さんが最高賞に輝いた。

さらに11月12日、金沢市の県女性センターで開催の県高文連英語部ドラマフェスティバ

ルの英語劇で泉丘が団体優勝、最優秀男優賞に2年の郷原和樹君が選ばれた。

全国新聞コンで奨励賞

10月15日の第59回石川県高校新聞コンクールで9年連続最優秀賞に選ばれた泉丘の「いずみの原」は、今年1月18日の第40回全国コンクールで奨励賞に輝いた。同コンクールは「高校新聞の甲子園」と言われ全国138校の応募で同賞は18校のみに与えられた。

◆クロカンで川端、竹多の両選手が優勝

11月1日、能美市で行われた第26回石川県クロスカントリー選手権大会男子の部8キロで泉丘2年の川端洋平選手、女子の部5キロで同じく泉丘2年の竹多景子選手が優勝した。

◆松田恵理奈さんにあすなる善行賞

小学校2年から森山もみじ太鼓クラブに所属し、地域のケアセンターや夏祭りで演奏を披露している泉丘1年の松田恵理奈さんに10月23日、北國あすなる善行賞が贈られた。

<編集後記>

2月上旬の新聞に、金沢市広坂通りのソメイヨシノが樹齢70年を超えて根が枯れるなど衰弱が進み、石川県では10年がかりで順次植え替えると言うニュースが出ていた。この桜は昭和16年に地元商店街が植樹したもの。

急に母校の桜が心配になった。金沢一中が多本町から現在地に移った同12年に植えられたもので、約80本の桜はいずれも平均寿命を超えて頑張ってくれている。

6年前にクローン化された醍醐寺のシダレザクラ5本を校庭に植えてくれた泉丘8期の八泉会が昨秋、「桜基金」として10万円を寄贈してくれた。この善意の輪を広げ、一中の別名・桜章校の名にふさわしい校庭の桜を守っていくのも同窓会事務局の大きな仕事の一つと考えている。(N)

「一泉」編集室

正村健三(泉丘4期) 中山一郎(同10期)

浅香以都子(同10期) 小林弘子(同12期)

題字・高川義一(一中53期・泉丘2期)